福山市

当初設計

令和8年度 国補

2026年度

元屋橋

福山市神辺町地内

橋梁修繕工事　実施設計書

	当初設計		
工事概要	工事延長	L=17.0m	
	橋長	L=11.5m	
	有効幅員	W=7.0m	
	ひび割れ補修工	L=9.7m	
	断面修復工	A=0.1m2	
	塗替塗装工	A=29m2	
	支承補修工	A=0.004m2	
	橋面防水工	A=95m2	
	表層工	A=161m2	
	伸縮装置設置工	L=26.0m	

特記仕様書

第1章 総則

第1節 適用

・本特記仕様書は、橋梁修繕工事（元屋橋）に適用する。
・本特記仕様書に記載のない事項については、次によるものとする。
・令和7年8月　広島県　土木工事共通仕様書、「設計図書（別冊図面、仕様書）」、「福山市建設工事執行規則」、「福山市工事検査技術基準」
・その他関連規格類
・小黒板情報電子化を実施しない工事写真について、監督員の承諾を得る必要はないものとする。

第2節　工程表の提出について

・契約締結後14日以内に設計図書に基づいて、工程表を作成し、発注者に提出すること。工期の変更契約についても同様とする。

第3節　地元への周知

・受注者は、監督員と協議し、地先住民、町内会長、土木常設員に工事着手及び工事完了の報告を行うこと。また、工事着手に先立ち地先住民及び貸借人には具体的な施工内容、方法、時期等の説明を行い、承諾を得ること。
・受注者は、工事着手の際に、あらかじめ沿線地権者に施工内容等についての説明を行い、承諾を得ること。

第4節　施工承認図の作成

・受注者は、受注後、設計図書に基づき現地を照査し、施工承認図を作成し監督員に提出すること。

第5節　現場代理人の常駐義務

・本工事において、現場代理人は常駐しなければならない。なお、やむを得ない事情により上記の指定により難い場合は、監督員と受注者が協議するものとする。

第6節　工事に着手すべき期日について

・受注者は、工事開始日以降30日以内に工事着手しなければならない。

第7節　法定外労災保険の付保について

・本工事は、法定外の労災保険契約の保険料を見込んでいる。

第2章　施工条件

第1節　工事支障物件

・調査項目：水道管位置確認
・調査時期：工事施工前に行うこと。
・移設期間：工事期間中
・提出書類：受注者は、工事着手に先立ち、水道管の調査を行い、施工による不測の事態に対処するため、監督員に誓約書を提出すること。

第2節　検査期間

・本工事の工期は、工事検査期間として、14日間を見込んでいる。

第3節　交通誘導警備員

1 片側交互通行及び通行止め等の交通制限を行う場合は、関係官公署の許可条件を遵守し、関係機関との協議を十分に行うこと。また、地域の地元関係者等周辺を利用する市民への周知徹底を図り、安全かつ円滑な交通を確保して事故発生の無いように努めること。
2 作業現場、作業用地内の整理整頓に留意して必要な安全施設の設置等を行い、関係者以外の立入りを禁止して危険防止に努めること。
3 本工事における交通誘導員は、交通誘導警備員Bを見込んでいる。尚、交通誘導警備員の実施伝票は原本を提出すること。
4　本工事において交通誘導警備員の積上げ人数は、交通誘導警備員の対象となる施工量に対し作業日当たり標準作業量から必要な人数を見込んでいる。したがって、正当な理由がある場合を除き、施工実績等による交通誘導員の積上げ人数の増員に対する変更は行わない。
5　受注者は、工事着手に先立ち、交通誘導警備員の配置計画（配置日数及び配置場所）を作成し、監督員と協議すること。

第4節　熱中症対策

・本工事は、工事現場の熱中症対策に資する経費に関して、現場管理費の補正を行う工事である。
1 工期（工事の始期日から工事の終期日までの期間で、準備期間、施工に必要な実日数、不稼働日及び後片付け期間の合計をいう。なお、検査期間13 日間、年末年始6 日間（12月29 日～1月3日）、夏季休暇3日間（国民の祝日である山の日の次の日から土曜日、日曜日及び振替休日を除く3日間とする。）、工場製作のみを実施している期間、工事全体を一時中止している期間は含まない。）期間中の真夏日の状況に応じて、変更契約時に現場管理費の補正を行うものとする。
2 真夏日とは、日最高気温が30度以上の日をいう。また、日最高暑さ指数（WBGT）が25度以上の日をいう。ただし、夜間工事の場合は、作業時間帯の最高気温又は最高暑さ指数（WBGT）を対象とする。
3 気温の計測箇所及び結果は、施工現場から最寄りの気象庁の地上気象観測所の気温又は環境省が公表している観測地点の暑さ指数（WBGT）を用いることを標準とする。なお、本工事において、上記地上観測所及び観測地点は、「福山」とすることを標準とする。
4 受注者は、工事期間中における気温の計測箇所、用いる計測値及び計測期間（計測開始日、計測終了予定日）を明記した施工計画書を工事着手前に提出し、計測結果を工事完成時までに監督員に提出すること。
5 受注者は、計測終了日について、工事完成時までに監督員と協議するものとする。
6 積算方法は次のとおりとする。
（1）補正方法
ア 受注者より提出された計測結果の資料を基に、補正値を算出し現場管理費率に加算する。ただし、現場管理費率の補正は、「積算寒冷地域で施工時期が冬期となる場合の補正」、「緊急工事の場合」及び本通知の補正値を合計し、2%を上限とする。
イ 真夏日率＝工期期間中の真夏日÷工期
ウ 補正値（%）＝真夏日率×1.2
（2）補正値の計算結果は、パーセント表示で少数点3位を四捨五入して2位止めとする。
7 受注者より、熱中症対策に資する現場管理費の補正が不要である旨の協議があった場合は、補正を行う工事から対象外とすることが出来る。
8 検査員から修補の指示があった場合、修補期間は対象外とする。

第5節　建設副産物について

(1)工事受注者は、工事着手前に、次の書類を本工事の監督職員に提出すること。なお、建設発生土については、処分先の現地確認写真を提出すること。
1 建設廃棄物処理計画書
・廃棄物処理業者（収集及び運搬）の許可証の写し（許可車両の自動車登録番号一覧及び自動車検査証の写しを含む）
・廃棄物処理業者（中間処理・最終処分）の許可証の写し（再生資源化施設にあっては、それを示す書類を含む）
・運搬ルート、処分場の位置、事業の範囲、処理能力及び処理方法を明示したもの
・各処分場の現地確認写真
・建設工事の受注者と処理業者（収集、運搬、中間処理・最終処分・再資源化施設）との二者の業務委託契約書の写し
2 再生資源利用計画書
3 再生資源利用促進計画書
(2) 工事受注者は、「再生資源利用計画書」、「再生資源利用促進計画書」及び「建設廃棄物処理計画書」に従い建設廃棄物及び特定建設資材廃棄物が適正に処理されたことを確認し、工事完成時に次の書類を監督職員に提出すること。なお、建設発生土については、処分先への搬入状況の写真を添付すること。
1 再生資源利用実施書
2 再生資源利用促進実施書
3 建設廃棄物処理実施書
・マニフェスト（産業廃棄物管理票）の写し及び再生資源化に係るものについては受入伝票の写し
（マニフェストは原則として環境省が示す全国統一のマニフェストを使用する。）
・収集及び運搬の写真並びに中間処理場及び最終処分場（直接最終処分の場合のみ）への搬入状況の写真

第6節　特定建設資材廃棄物（アスファルト塊、コンクリート塊等）

・建設リサイクル法対象工事（請負代金額500万円以上）の場合、「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」を遵守し適正に処理すること。また、法第12条第2項に基づき、法第10条第1号から第5号までに掲げる事項について下請負人に告知する場合は、告知書の写しを監督員に提出すること。
・特定建設資材廃棄物は、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」（以下「廃棄物処理法」という）を遵守し、適正に処理しなければならない。
・特定建設資材廃棄物は、広島県（環境局）及び保健所設置政令市（広島市、呉市、福山市）が、廃棄物処理法に基づき許可した適正な施設へ搬出し再資源化しなければならない。
・再資源化に要する費用（運搬費を含む処分費）は、広島県（環境局）及び保健所設置政令市（広島市、呉市、福山市）が廃棄物処理法に基き許可した適正な施設のうち受入条件が合うものの中から、運搬費と受入費の合計が最も経済的になるものを見込んでいる。従って、正当な理由がある場合を除き再資源化に要する費用（単価）は変更しない。なお、工事発注後に明らかになったやむを得ない事情により、施設への受入が困難な場合は監督員と受注者が協議するものとする。
・搬出先においては、処分状況が確認できるよう、写真撮影を行うとともに、数量等が確認できるように計量伝票等を監督員に提出すること。

・マニフェスト（産業廃棄物管理票）の写し及び再生資源化に係るものについては受入伝票の写し
（マニフェストは原則として環境省が示す全国統一のマニフェストを使用する。）

第3章　その他

第1節　その他項目

・本特記仕様書及び設計図書に明示していない事項または、その内容に疑義が生じた場合は、監督員の指示を受けること。

総括情報表

変更回数	0
適用単価地区	70 福山市
単価適用日	00-08.07.01(0)
諸経費体系	1 公共(一般)

	当世代	前世代
工種	41 橋梁保全工事	
施工地域・工事場所区分	04 一般交通影響有り(2)	
復興補正区分	00 補正なし	
週休補正区分	00 補正なし	
現場事務所等の貸与区分	00 補正なし	
ＩＣＴ補正区分	00 補正なし	
冬期補正係数	00 補正なし	
緊急工事区分	00 通常工事 ０％	
前払金支出割合区分	00 補正無し	
契約保証区分	01 金銭的保証(0.04%)	

建設技能労働者や交通誘導員等の現場労働者にかかる経費として，労務費のほか各種経費（法定福利費の事業者負担額，労務管理費，安全訓練等に要する費用等）が必要であり，本積算ではこれらを現場管理費等の一部として率計上している。

≪凡例≫

Co ･･･コンクリート　　As ･･･アスファルト
DT ･･･ダンプトラック　　BH ･･･バックホウ
CC ･･･クローラクレーン　TC ･･･トラッククレーン
RTC･･･ラフテレーンクレーン

本工事費　内訳表

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
本工事費					X1000
橋梁保全工事	1	式			Y1G03　　レベル1
橋梁補修工	1	式			Y1G0324　　レベル2
ひび割れ補修工	1	式			Y1G032404　レベル3
低圧注入工法 【材料種類】		構造物			Y1G03240402レベル4
ひび割れ補修工(低圧注入工法) 補修延べ延長25m未満の場合	1	構造物			S1020035　　00 単第0 -0001　表
断面修復工	1	式			Y1G032405　レベル3
左官工法 【材料種類】 【鉄筋ケレン・鉄筋防錆処理の有無】		構造物			Y1G03240501レベル4
断面修復工(左官工法) (鉄筋ケレン・鉄筋防錆処理を含む) 修復延べ体積0.1m3未満の場合	1	構造物			S1020039　　00 単第0 -0002　表

本工事費　内訳表

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
殻運搬 【殻種別】		m3			Y1G03271601レベル4
殻運搬 Co(無筋)構造物とりこわし DID区間無し 運搬距離10.9km以下(8.0km超)	0.005	m3			SPK25040155 00 単第0 -0003 表
殻処分 【殻種別】		m3			Y1G03271602レベル4
【直接工事費に含まれる処分費等】 「処分費等」の取扱いによる					#0041
コンクリート殻処分 構造物取壊し 再資源化施設受入費	0.01	t			F0000000019 00
現場塗装工	1	式			Y1G0325 レベル2
道路付属構造物塗装工	1	式			Y1G032502 レベル3
素地調整 【調整工種別】		m2			Y1G03250201レベル4
素地調整 防護柵類	29	m2			SPK25040312 00 単第0 -0004 表

本工事費　内訳表

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
下塗 【塗装種別,塗装箇所,塗替回数】		m2			Y1G03250202レベル4
下塗	29	m2			V0001 00 単第0 -0005 表
上塗 【塗料種別,塗装箇所,塗替回数】		m2			Y1G03250204レベル4
上塗	29	m2			V0002 00 単第0 -0007 表
橋梁支承工	1	式			Y1G0320 レベル2
PC橋支承工	1	式			Y1G032002 レベル3
支承補修工 【支承形式,下部工ブラケット取付の有無】 【支承直下部以外のはつりの有無】		基			Y1G03200201レベル4
支承補修工 ゴム支承用耐候性表面保護 ハード＋ソフト	0.004	m2			V0003 00 単第0 -0008 表
舗装工	1	式			Y1G0304 レベル2

本工事費　内訳表

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
オーバーレイ工	1	式			Y1G030404　レベル3
橋面防水工 【材料種類,材料規格,舗装厚,平均幅員】		m2			Y1G03040405レベル4
橋面防水工	95	m2			V0004　00 単第0 -0009　表
舗装打換え工	1	式			Y1G030402　レベル3
舗装版切断 【舗装版種別,舗装厚】		m			Y1G03040201レベル4
舗装版切断 アスファルト舗装版 アスファルト舗装版厚15cm以下	37	m			SPK25040307 00 単第0 -0011　表
舗装版破砕 【舗装版種別,舗装版厚】		m2			Y1G03040202レベル4
舗装版破砕 アスファルト舗装版 障害等無し 舗装版厚15cm以下	161	m2			SPK25040306 00 単第0 -0012　表
殻運搬 【殻種別】		m3			Y1G03040205レベル4

本工事費　内訳表

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
殻運搬 舗装版破砕 DID区間無し 運搬距離11.5km以下(6.5km超)	10	m3			SPK25040155 00 単第0 -0013 表
殻処分 【殻種別】		m3			Y1G03040206レベル4
【直接工事費に含まれる処分費等】 「処分費等」の取扱いによる					#0041
As殻受入費	23	t			F0000000015 00
表層 【材料種類,材料規格,舗装厚,平均幅員】		m2			Y1G03040211レベル4
表層(車道・路肩部) 平均幅員3.0m超 1層当り平均仕上厚60mm	95	m2			SPK25040244 00 単第0 -0014 表
表層(車道・路肩部) 平均幅員3.0m超 1層当り平均仕上厚60mm	66	m2			SPK25040244 00 単第0 -0015 表
橋梁付属物工	1	式			Y1G0321 レベル2
伸縮継手工	1	式			Y1G032101 レベル3

本工事費　内訳表

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
鋼・ゴム製伸縮装置補修 【工種,伸縮装置本体型式】 【仕様,伸縮装置本体材料の計上】		m			Y1G03210103レベル4
FCクラック抑制工	1	橋			V0007 00 単第0 -0016 表
止水板 止水板(各種)	4	m			SPK25040119 00 単第0 -0018 表
シール材	3	m			V0006 00 単第0 -0019 表
仮設工	1	式			Y1G0328 レベル2
交通管理工	1	式			Y1G032821 レベル3
交通誘導警備員		人			Y1G03282101レベル4
交通誘導警備員B	9	人			R0369 00
＊＊直接工事費＊＊ #0020計=支給品等(材料),無償貸付					

本工事費　内訳表

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
共通仮設費率分					Z0019
計算情報…… 対象額…… 率……					
＊＊共通仮設費計＊＊					
＊＊純工事費＊＊					
現場管理費 計算情報…… 対象額…… 率……					
＊＊工事原価＊＊					
一般管理費率分 計算情報…… 対象額…… 率……					前払補正率…
契約保証費 計算情報…… 対象額…… 率……					当初請対額 当初対象額
一般管理費計					

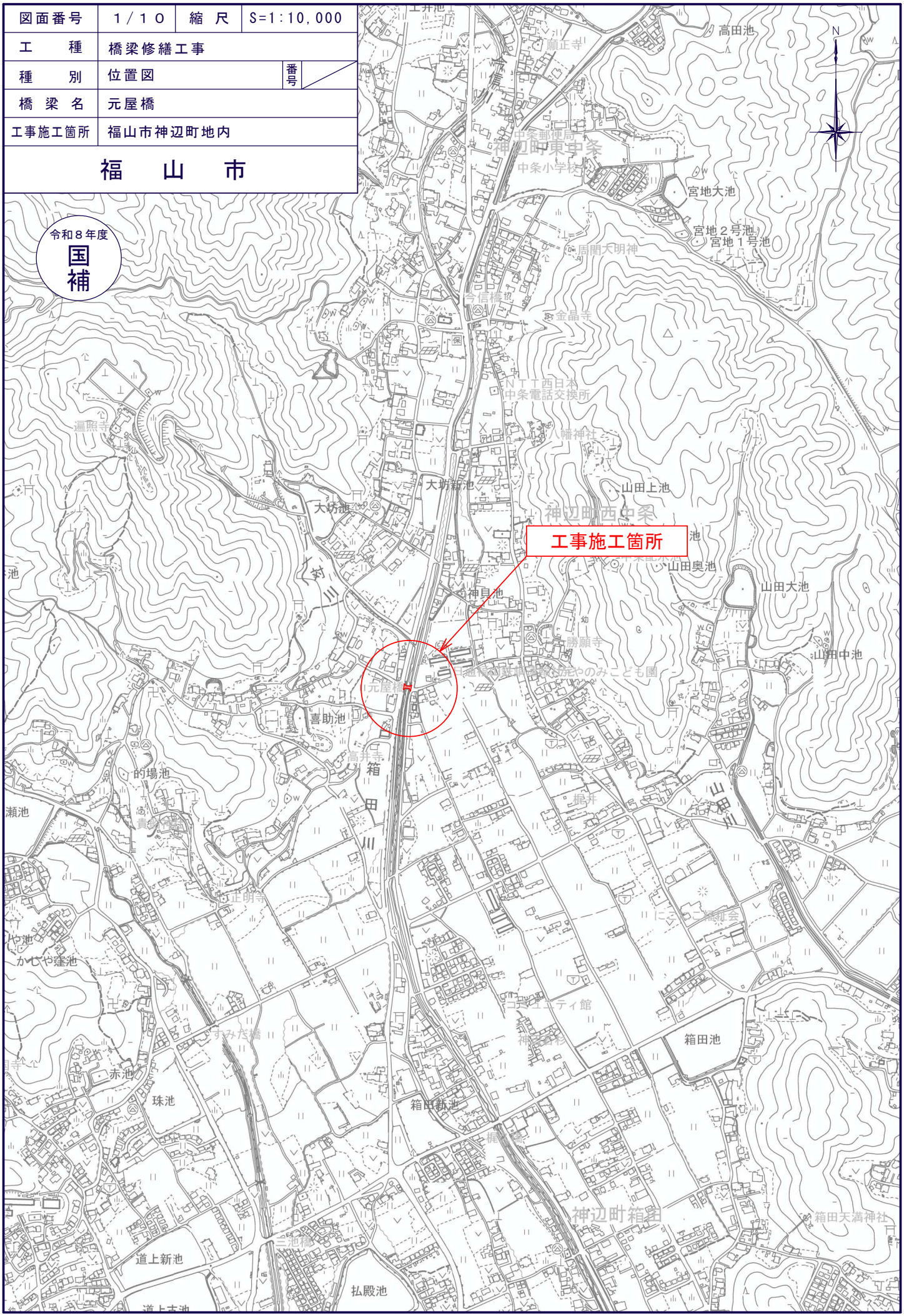
本工事費　内訳表

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
＊＊工事価格＊＊					
＊＊消費税相当額＊＊ 計算情報…… 対象額…… 率……					
＊＊工事費計＊＊					
＊＊契約保証費計＊＊					

図面番号	1／10	縮　尺	S=1:10,000
工　　種	橋梁修繕工事		
種　　別	位置図	番号	
橋　梁　名	元屋橋		
工事施工箇所	福山市神辺町地内		

福　山　市

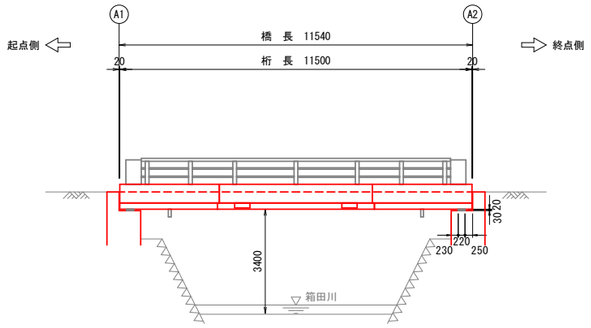
令和８年度
国補



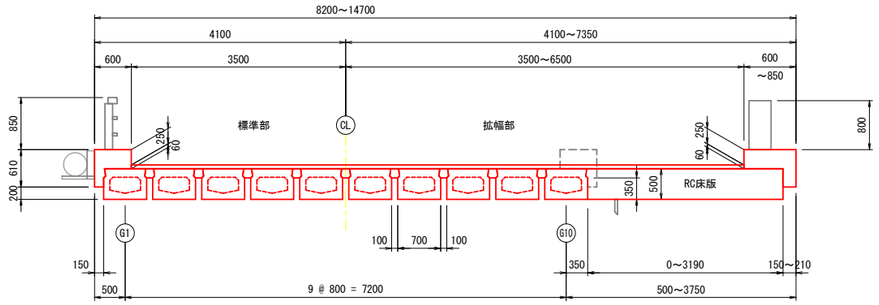
元屋橋　現況一般図　　S=1:100

令和８年度
国補

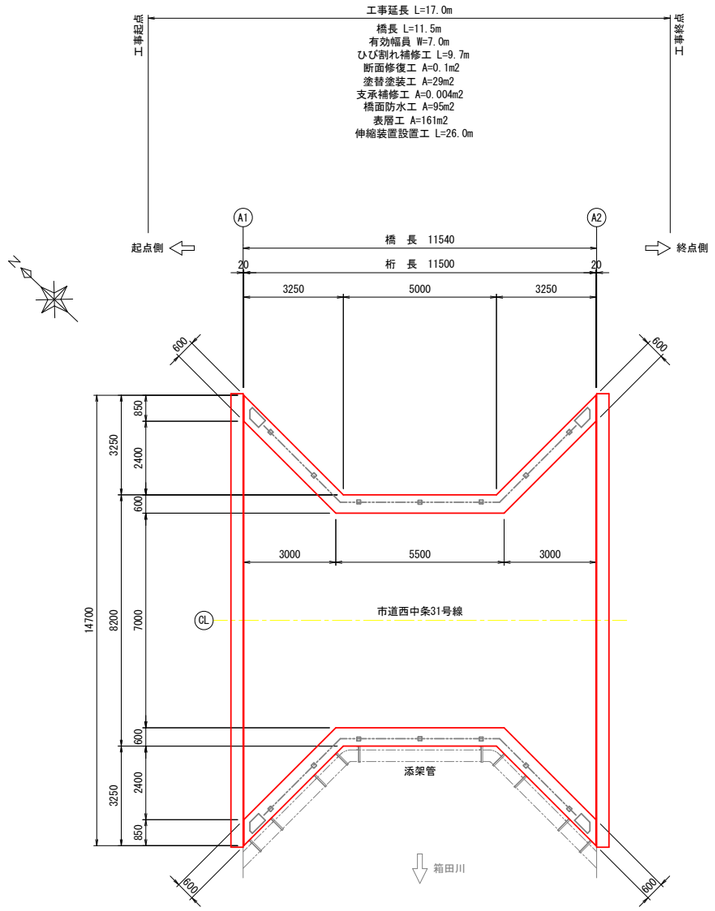
側 面 図



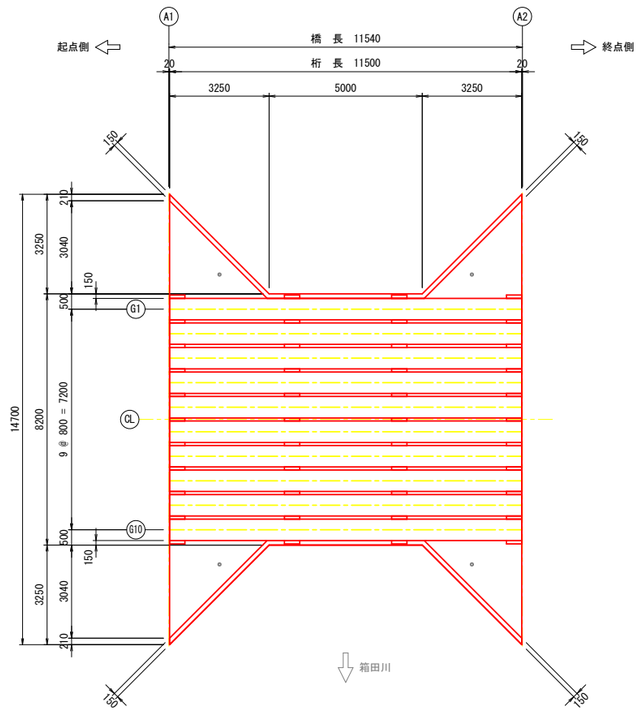
標準断面図　　S=1:50



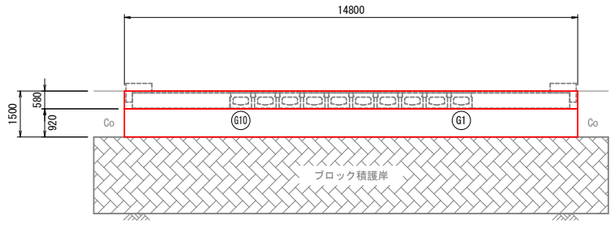
平 面 図（橋面）



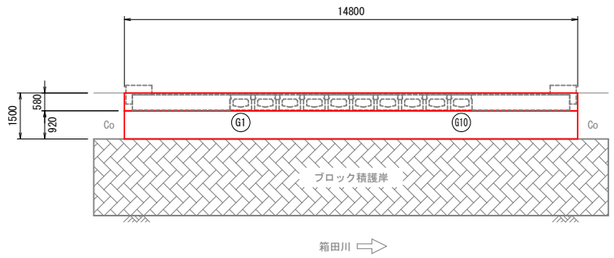
平 面 図（桁下）



A1橋台　正 面 図



A2橋台　正 面 図

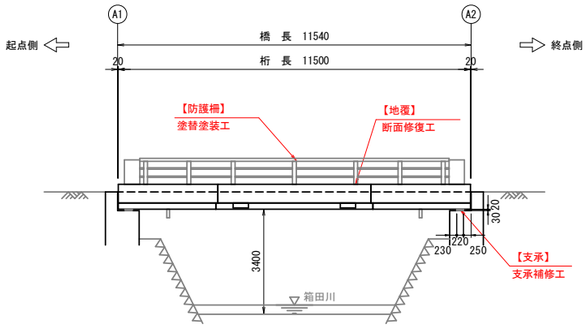


工 事 名	橋梁修繕工事（元屋橋）		
図 面 名	現況一般図		
作成年月日	令和 8 年 7 月		
縮　尺	図 示	図面番号	2 / 10
会 社 名			
事業者名	福山市 神辺建設産業課		

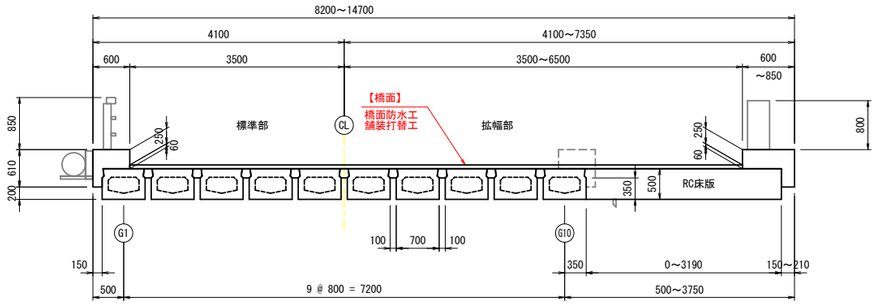
元屋橋　補修一般図

令和８年度
国補

平 面 図（橋面）　S=1:100



標準断面図　S=1:50

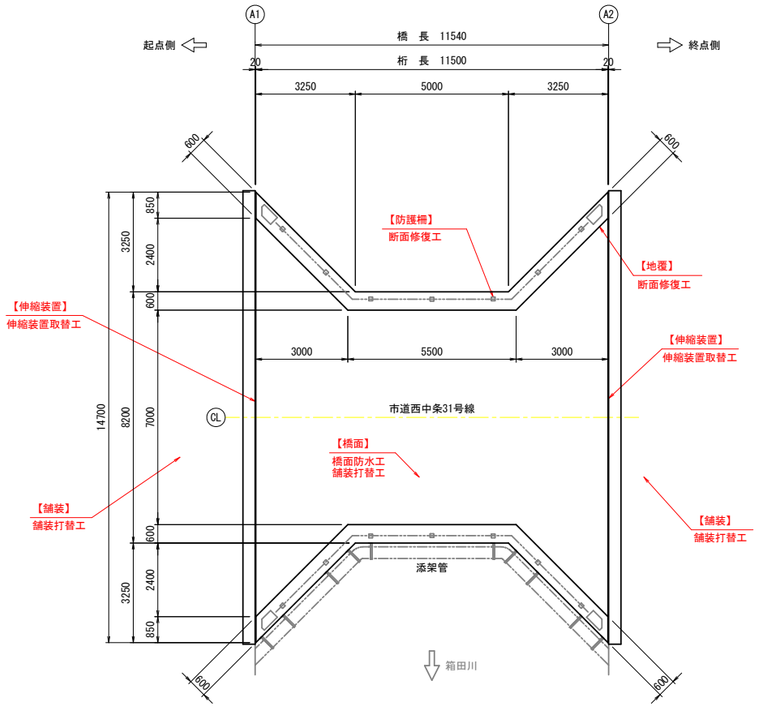


補修概要一覧表

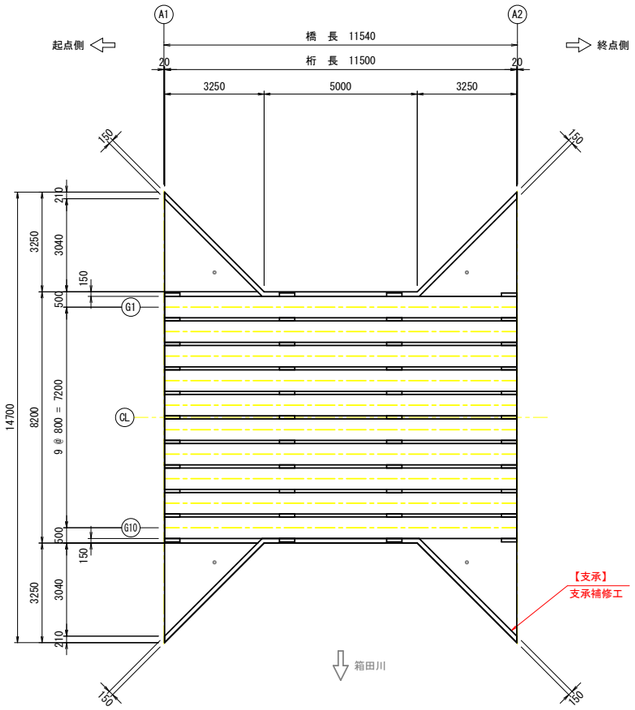
部材		工法概要	材料
橋面	防護柵	塗替塗装工	常温亜鉛めっき
	地覆	断面修復工	ポリマーセメントモルタル
	舗装	舗装打替工（橋面・橋台背面取付道路部）	再生密粒度As(20)　t=60
		橋面防水工	塗膜系防水材（アスファルト加熱型）
	伸縮装置	伸縮装置取替工	クラック抑制（ファルコン＋メジエイド）相当品
支承部	支承	支承補修工	表面保護材（HBコート）相当品
下部工	橋台	ひびわれ注入工	エポキシ樹脂1種

【適用基準等】
・道路橋示方書・同解説Ⅰ～Ⅴ　平成29年道示
・コンクリートのひび割れ調査・補修・補強指針-2022-

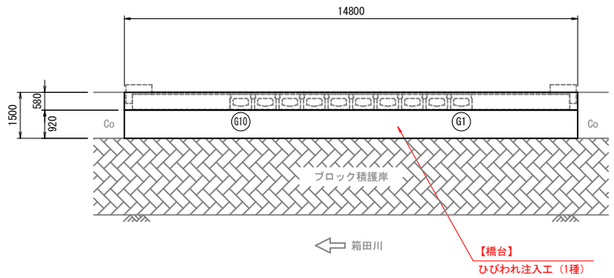
平 面 図（橋面）　S=1:100



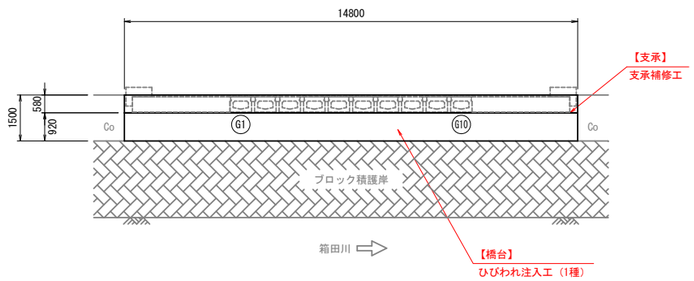
平 面 図（桁下）　S=1:100



A1橋台　正 面 図　S=1:100



A2橋台　正 面 図　S=1:100



【留意事項】
1）形状は既存資料および測量結果に基づく。
2）施工前には必ず現状寸法を再測し、施工寸法を確認すること。

工事名	橋梁修繕工事（元屋橋）		
図面名	補修一般図		
作成年月日	令和 8 年 7 月		
縮尺	図示	図面番号	3 / 10
会社名			
事業者名	福山市 神辺建設産業課		

元屋橋　補修図（その１）

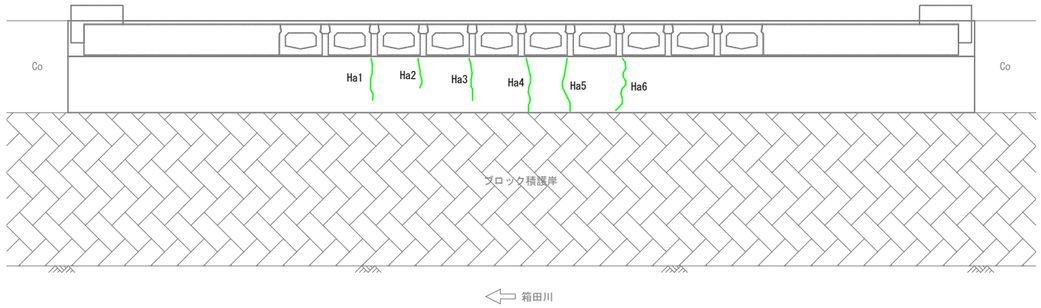
＜ひびわれ補修工＞

令和８年度
国補

損 傷 凡 例

記　号	損 傷 種 類	数 量 記 号
	ひびわれ（W=0.2mm未満）	A
	ひびわれ（W=0.2mm～1.0mm未満）	H
	ひびわれ（W=1.0mm以上）	J
	う　き	U
	剥　離	D
	鉄筋露出	T
	欠　損	K
	摩　耗・浸　食	S
	豆　板	M
	遊離石灰	Y
	漏水跡	W
	腐食，防食機能の劣化	FB
	防食機能の劣化	B
	その他	各種

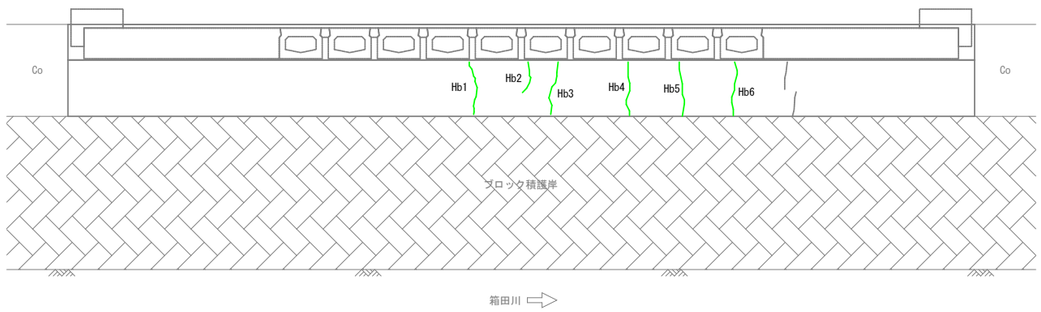
A1橋台　S=1:50



ひびわれ注入工数量（1種）

No	寸 法(mm)
A1橋台	
0.2～1.0mm未満	
Ha 1	0.20 ― 700
2	0.20 ― 500
3	0.20 ― 700
4	0.40 ― 900
5	0.30 ― 900
6	0.20 ― 900
合　計　(m)	4.600
平均ひびわれ幅 (m)	0.00026

A2橋台　S=1:50



ひびわれ注入工数量（1種）

No	寸 法(mm)
A2橋台	
0.2～1.0mm未満	
Hb 1	0.30 ― 900
2	0.20 ― 550
3	0.30 ― 900
4	0.20 ― 900
5	0.30 ― 900
6	0.30 ― 900
合　計　(m)	5.050
平均ひびわれ幅 (m)	0.00027

【留意事項】
1）形状は既存資料および測量結果に基づく。
2）施工前には必ず現状寸法を再測し、施工寸法を確認すること。

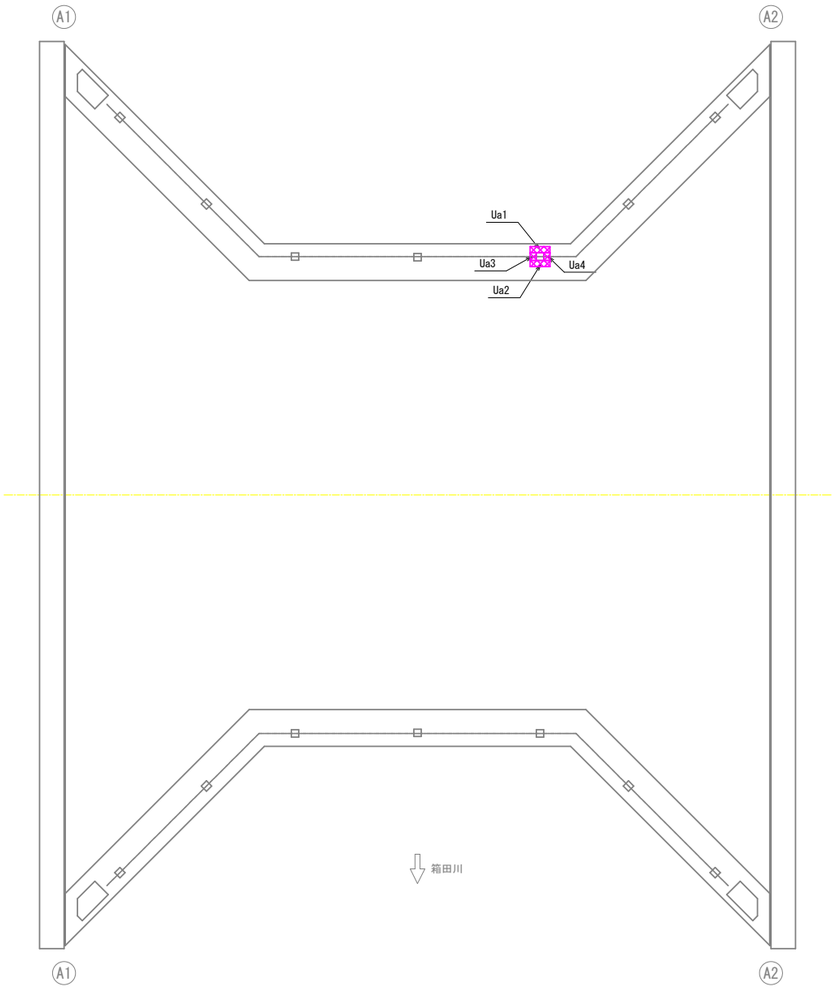
工 事 名	橋梁修繕工事（元屋橋）		
図 面 名	補修図（その１）		
作成年月日	令和 8 年　7 月		
縮　　尺	図 示	図面番号	4 / 10
会 社 名			
事業者名	福山市 神辺建設産業課		

元屋橋　補修図（その２）

＜断面修復工＞

令和８年度
国補

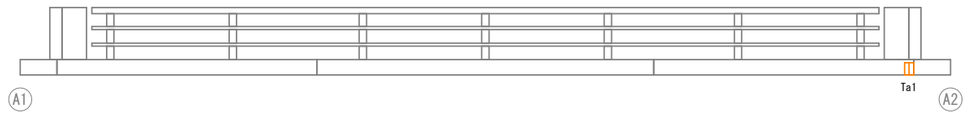
平面図(橋面)　S=1:50

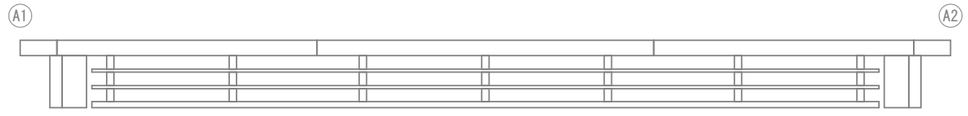


損 傷 凡 例

記　号	損 傷 種 類	数 量 記 号
	ひびわれ（W=0.2mm未満）	A
	ひびわれ（W=0.2mm～1.0mm未満）	H
	ひびわれ（W=1.0mm以上）	J
	う　き	U
	剥　離	D
	鉄筋露出	T
	欠　損	K
	摩　耗・浸　食	S
	豆　板	M
	遊離石灰	Y
	漏水跡	W
	腐食，防食機能の劣化	FB
	防食機能の劣化	B
	その他	各種

地覆・防護柵側面図(内側)　S=1:50

上流側

下流側



断面修復工数量(防錆処理あり)

はつり45mm

No	寸 法(mm)			面積(m2)
地覆				
うき				
Ua　1	100	×	325	0.033
Ua　2	100	×	325	0.033
Ua　3	125	×	100	0.013
Ua　4	125	×	100	0.013
小　計				0.092
鉄筋露出				
Ta　1	200	×	150	0.030
小　計				0.030
合　計				0.122

【留意事項】
1）形状は既存資料および測量結果に基づく。
2）施工前には必ず現状寸法を再測し、施工寸法を確認すること。
3）はつり深さは現地鉄筋の腐食状況に応じて変更すること。

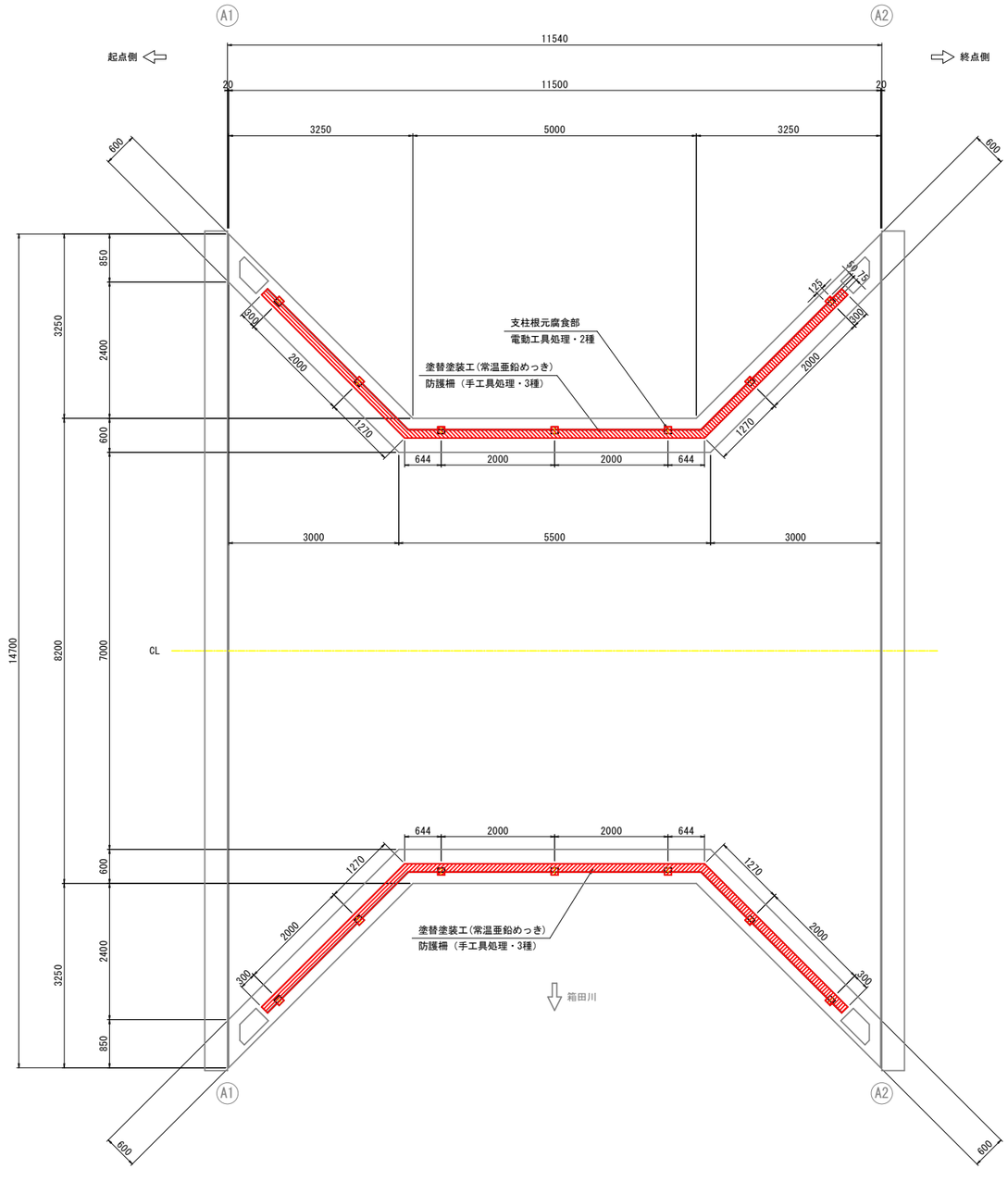
工 事 名	橋梁修繕工事（元屋橋）		
図 面 名	補修図（その２）		
作成年月日	令和 8 年　7 月		
縮　尺	図 示	図面番号	5 / 10
会 社 名			
事業者名	福山市 神辺建設産業課		

元屋橋　補修図（その３）

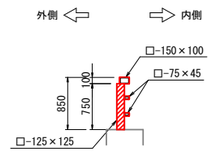
＜塗替塗装工＞

令和８年度 国補

平面図(橋面)　S=1:50

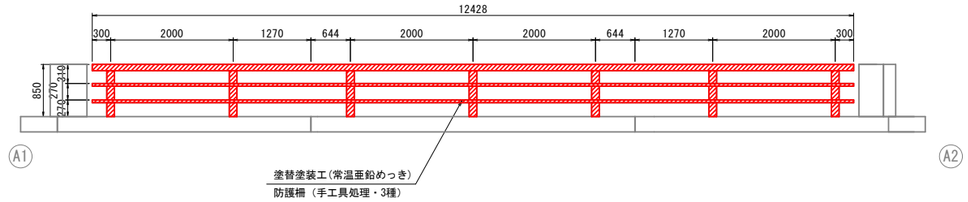


防護柵断面図　S=1:50



防護柵側面図　S=1:50

（上流・下流共通）



素地調整

項目＼素地	鉄　面		亜鉛めっき面	
主な適用例	亜鉛めっき代替	長期防錆 溶接溶断補修	新設亜鉛めっきのさび止め性能向上 既存亜鉛めっきの原状回復	
素地	黒皮、赤さび、旧塗膜、溶接・溶断部等		赤さび、旧塗膜 溶接・溶断部等	白さびのみ （赤さび発生なし）
種別	ブラスト処理・1種	電動工具処理・2種		手工具処理・3種
方法	ブラスト工法による	ディスクサンダー、ディスクペーパー等の動力工具及びスクレーパー・ワイヤーブラシ等による		ワイヤーブラシ、研磨布 研磨紙(#180～#240)等による

出典：ローバルシリーズ塗装施工仕様書
(C-50-316-R・A改修)

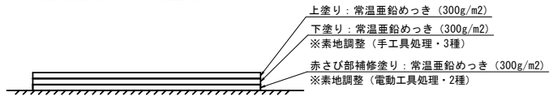
塗装工程

工程	塗料名	実塗布量(g/m2)		塗膜厚(μm)	回数	塗装間隔(20℃)
		ハケ	スプレー	ドライ		
素地調整	上記素地調整をご参照下さい。 海塩粒子の影響が懸念される場合は、充分な水洗洗浄を行ってください。					
赤さび部 補修塗り	ローバル相当品	300	325	40	1	30分以上
下塗り	ローバル相当品	300	325	40	1	30分以上
上塗り	ローバルアルファ 相当品	300	325	40	1	—
—	合計	600	650	80	—	—

出典：ローバルシリーズ塗装施工仕様書
(C-50-316-R・A改修)

※赤さび部は素地調整を電動工具処理・2種とし、補修塗りを行うこと。
※実塗布量はロス率含む。

塗替塗装工（常温亜鉛めっき）



※　施工手順

1　表面清掃：汚れ・付着物の除去
↓
2　下地処理：手工具処理・3種
　　赤さび部は電動工具処理・2種
↓
3　赤さび部補修塗り：常温亜鉛めっき(300g/m2)　ローバル相当品
　　（※赤さび部のみ）
↓
4　下塗り　：常温亜鉛めっき(300g/m2)　ローバル相当品
↓
5　上塗り：常温亜鉛めっき(300g/m2)　ローバルアルファ相当品
↓
6　施工完了：養生

塗装塗替工

（常温亜鉛めっき）

名　称	面　積 (m2)
防護柵	29.407
合計	29.407

【留意事項】
1）形状は既存資料および測量結果に基づく。
2）施工前には必ず現状寸法を再測し、施工寸法を確認すること。

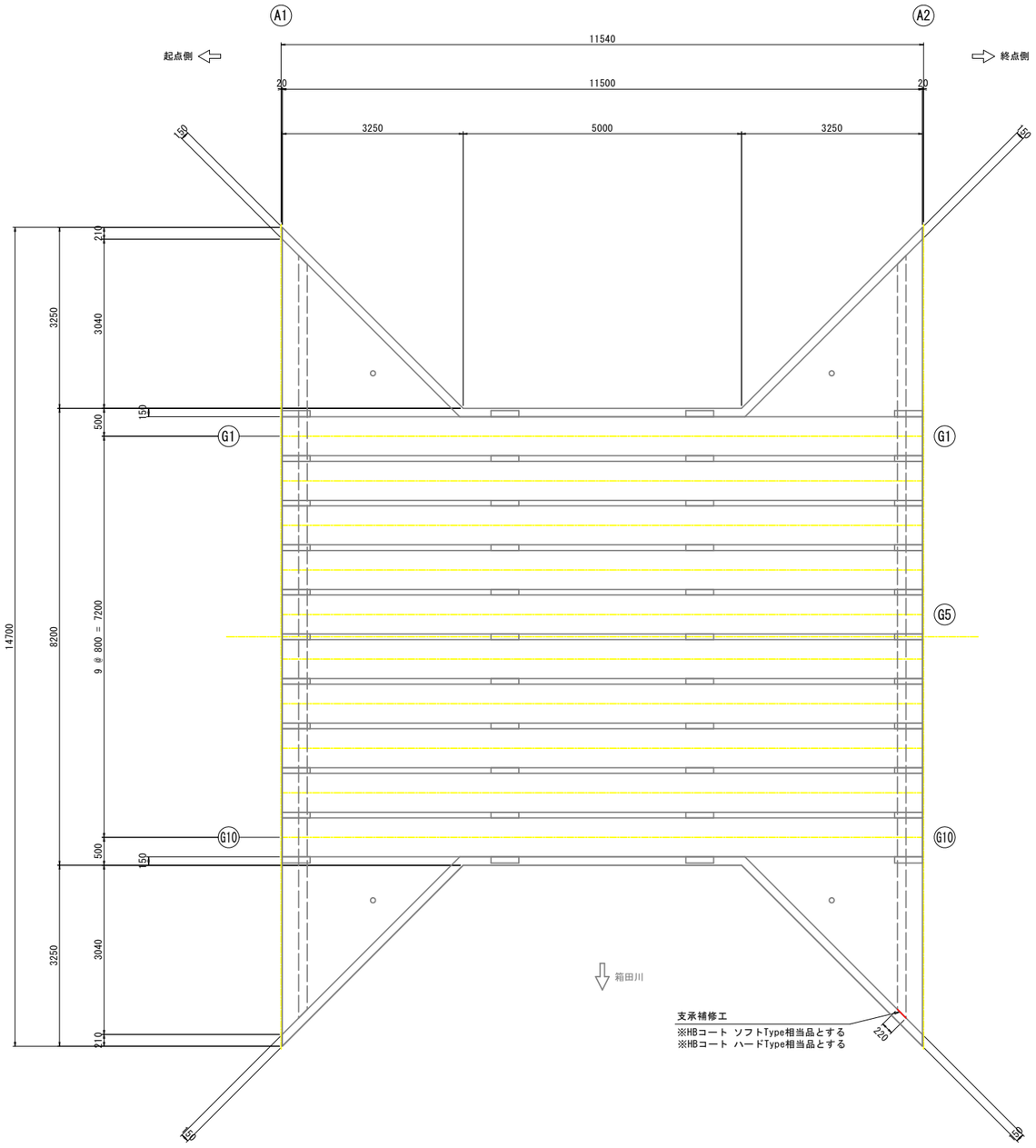
工事名	橋梁修繕工事（元屋橋）		
図面名	補修図（その３）		
作成年月日	令和 8 年　7 月		
縮　尺	図示	図面番号	6 / 10
会社名			
事業者名	福山市 神辺建設産業課		

元屋橋　補修図（その４）

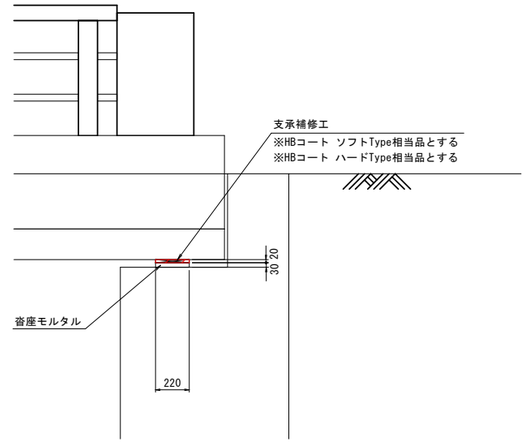
＜支承補修工＞

令和８年度
国補

平 面 図（桁下）　S=1:50



詳 細 図　S=1:20



支承補修工数量

名　称	面積	備考
A2下流部	0.004m2	0.22×0.02
合　計	0.004m2	

※段差部にHBコート・ハードタイプ（相当品）を刷り込んだ後、
HBコート・ソフトタイプ（相当品）を塗布すること。

【留意事項】
1）形状は既存資料および測量結果に基づく。
2）施工前には必ず現状寸法を再測し、施工寸法を確認すること。

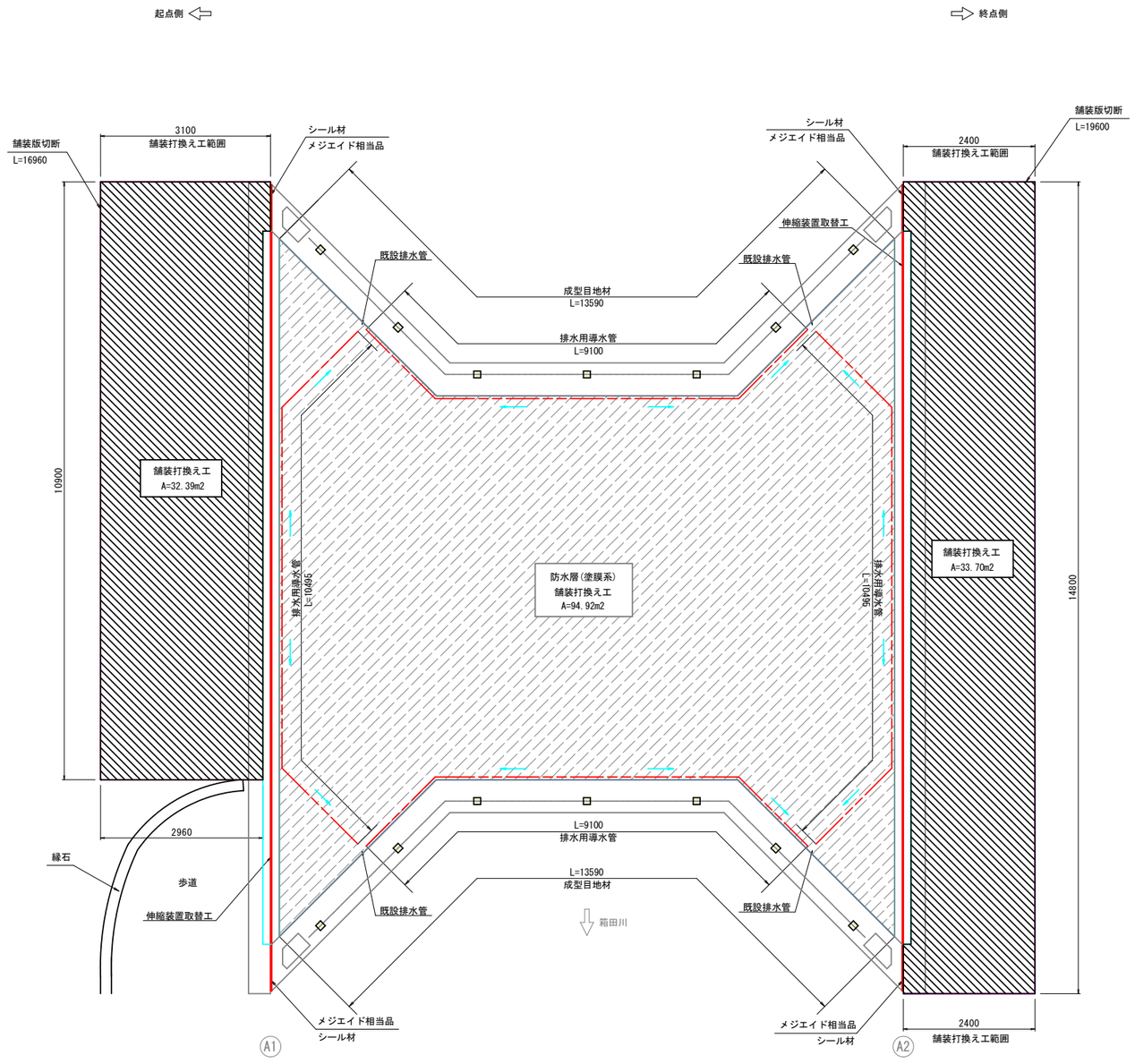
工 事 名	橋梁修繕工事（元屋橋）		
図 面 名	補修図（その４）		
作成年月日	令和 8 年 7 月		
縮　尺	図 示	図面番号	7 / 10
会 社 名			
事業者名	福山市 神辺建設産業課		

元屋橋　補修図（その５）

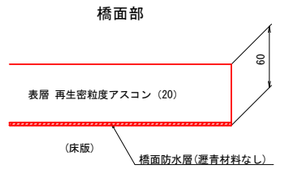
＜橋面防水工・舗装打換えエ＞

令和８年度
国補

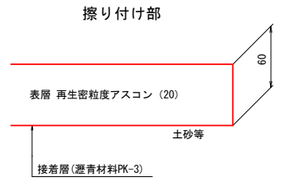
平面図(橋面)　S=1:50



舗装構成図　S=1:3



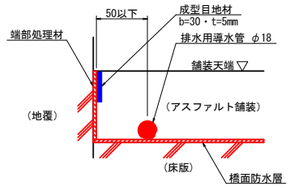
※（　）は、最大骨材径を示す。



※（　）は、最大骨材径を示す。

縦断排水部詳細図　S=1:3

（車道 地覆部）



橋面防水工数量表

名　称	規　格	単位	数 量	備　考
橋面防水	塗膜系アスファルト加熱型防水層	m2	94.92	CAD求積より
ドレーン材	排水用導水管　φ18	m	39.190	10.495+10.495+9.1+9.1（SUS製）
目地工	成型目地材　b=30mm・t=5mm	m	27.180	13.59+13.59

舗装打換え工数量表

名　称	規　格	単 位	数 量	備　考
舗装版切断工	舗装厚=60mm	m	36.560	16.96+19.6
舗装版破砕工	舗装版厚=15cm以下	m2	161.01	94.92+32.39+33.70（CAD求積より）
表層	再生密粒度As（20）t=60mm	m2	161.01	94.92+32.39+33.70（CAD求積より）

注1）舗装版取壊しを行う際は、床版等を破損しないよう注意すること。
注2）既設舗装撤去後に床版上面に不陸が見られる場合は、モルタル等で不陸整正を行うこと。
注3）床版上面に損傷（うきや剥離等）が見られる場合は、ポリマーセメントモルタルにより、断面修復を行うこと。
注4）排水勾配が逆勾配となる箇所については、施工時に排水勾配を設けること。
注5）防水材塗布時は表面水分量10%以下とすること。
注6）防水材塗布は、気温5℃以下では施工しないこと。
注7）縦横断排水管の流末処理については、既設排水桝を穿孔し、排水桝内に差し込むこと。

【留意事項】
1）形状は既存資料および測量結果に基づく。
2）施工前には必ず現状寸法を再測し、施工寸法を確認すること。

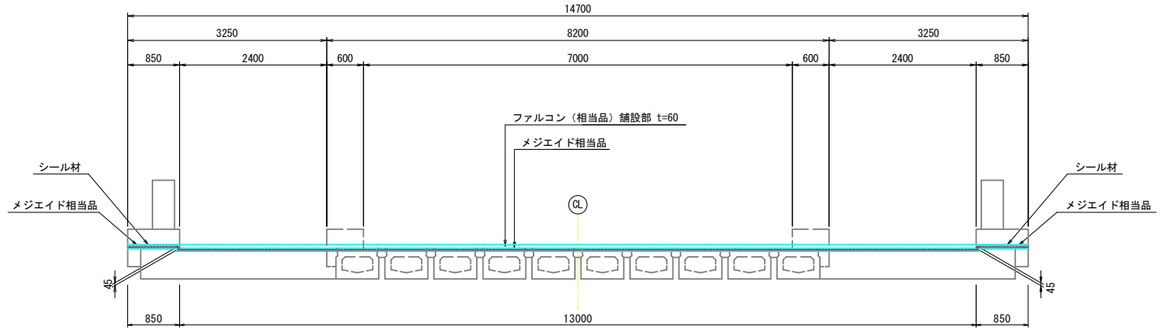
工 事 名	橋梁修繕工事（元屋橋）		
図 面 名	補修図（その５）		
作成年月日	令和 8 年　7 月		
縮　尺	図 示	図面番号	8 / 10
会 社 名			
事業者名	福山市 神辺建設産業課		

元屋橋　補修図（その６）

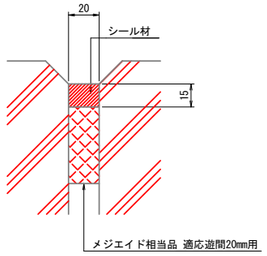
＜伸縮装置設置工＞

令和８年度
国補

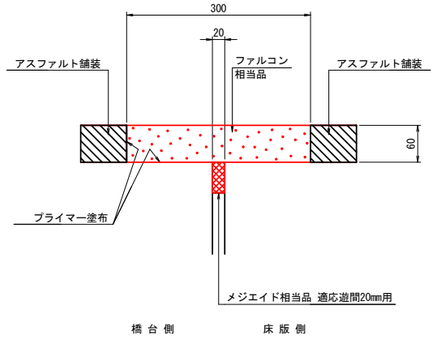
伸縮装置取付断面図　S=1:50



地覆部断面図　S=1:2



弾性合材舗設断面図　S=1:5



注1）仕様・諸寸法・適応の可否は、現地再調査及び照査の上、決定のこと。
注2）ファルコン（相当品）舗設箱抜部については、必要に応じて超速硬無収縮モルタル等にて補修及び不陸調整を行うこと。

数量表（設置）

名　称	品名又は仕様	単位	数　量	備　考
伸 縮 装 置	クラック抑制工法	m	26.000	13.0+13.0
プライマー	FCコート相当品	L	5.5	
弾 性 合 材	ファルコン相当品	m3	0.468	
止　水　材	メジエイド相当品（適応遊間20mm用）	m	26.000	伸縮部（13.0+13.0）

数量表（他材料）

名　称	品名又は仕様	単位	数　量	備　考
シ ー ル 材	シ リ コ ン 系	L	1.0	
止　水　材	メジエイド相当品（適応遊間20mm用）	m	3.580	A1・A2地覆部　(0.85+0.045) ×4

【留意事項】
1）形状は既存資料および測量結果に基づく。
2）施工前には必ず現状寸法を再測し、施工寸法を確認すること。

工 事 名	橋梁修繕工事（元屋橋）		
図 面 名	補修図（その６）		
作成年月日	令和 8 年　7 月		
縮　　尺	図 示	図面番号	9 / 10
会 社 名			
事業者名	福山市 神辺建設産業課		

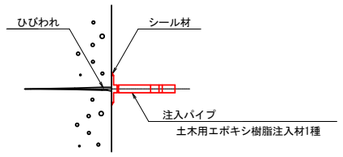
元屋橋　補修標準図

令和８年度
国補

ひびわれ補修工

ひびわれ注入工

（エポキシ樹脂1種注入）



※　施工手順

1　表面処理
↓
2　注入プレート貼付
↓
3　シール材塗布
↓
4　注　入
↓
5　養　生
↓
6　仕上げ

※　注

1. 注入対象となるひびわれは、ひびわれ幅0.2mm以上とする。
2. ひびわれ注入深さは50mmを想定して
いるが、ひびわれの最深部まで確実に注入すること。
3. 注入パイプの間隔は、25cm程度とする。
4. 注入材はエポキシ樹脂系を使用する。
5. 施工の適正気温及び養生方法を確認し、施工を行うこと。

ひびわれ補修工

補修材の要求性能

（この要求性能を参考として、同等品と認められる材料を選定するものとする）

ひびわれ補修材の性能例

（試験温度　20℃）

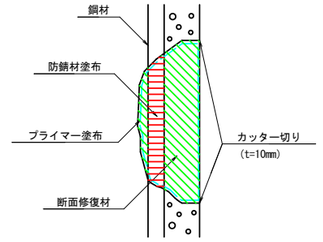
材料の種類 ＼ 項目	注入材		
	土木補修用エポキシ樹脂注入材 1種	土木補修用エポキシ樹脂注入材 2種	土木補修用エポキシ樹脂注入材 3種
ひびわれ進行区分※1	B	B	A
ひびわれ幅（mm）	0.2～5.0	0.2～5.0	0.2～5.0
粘　　度（mPa・s）	1,000以下	4±1※2	1,000以下
可使時間（分）	30以上	30以上	30以上
硬化時間（時間）	16以内	16以内	24以内
硬化収縮（%）	0.1以下	0.1以下	0.1以下
伸 び 率（%）	—	50以上	100以上
モルタル付着強さ（乾燥面）（N/mm2）	6以上	6以上	6以上
付着力耐久性保持率(%)※3	60以上	60以上	60以上

※1：A=ひびわれが進行している、B=ひびわれの進行が止まった
※2：チキソトロピック係数　2rpm/20rpmの粘度で表す。
※3：規格に対する百分率
出典：「ひびわれ調査、補修・補強指針：日本コンクリート工学協会」P.124

断面修復工

（断面修復材：ポリマーセメントモルタル・左官工法）

（防錆処理ありの場合）



※　施工手順

1　カッター切断
↓
2　コンクリートはつり
↓
3　下地処理
↓
4　鉄筋防錆処理
↓
5　プライマー塗布
↓
6　断面修復材こて塗り

※　注

1. 劣化、不良コンクリートのはつりは、健全部に損傷をあたえないよう周囲
に深さ1cm程度コンクリートカッターにより切断目地を入れ、入念に施工する。
※修復深さについて
鉄筋露出・うき：純かぶり+鉄筋径(主筋)+鉄筋径(配力筋)+10mm程度

2. 被りが浅い箇所の断面修復を行う場合、純被り10mm以上を確保すること。
鋼材の裏側までコンクリートをはつり取り、鋼材の錆を除去し、鋼材の
防錆処理を確実に行う事。
鋼材の断面欠損が著しい場合は、新たに鋼材(添え筋)を追加する。
3. 使用材料

断面修復材

無収縮ポリマーセメントモルタルとし、「表面保護工法 設計施工指針(案)
[工法別マニュアル編] 平成17年土木学会」に示す断面修復材の規格を満足
するものとする。

力 学 的 性 能	
要求性能	設計及び施工条件
圧縮強度	躯体コンクリートと同等な強度特性を有すること
付着強度	躯体コンクリートと一体となること (1.5N/mm2以上)

断面修復工

補修材の要求性能

（この要求性能を参考として、同等品と認められる材料を選定するものとする）

ポリマーセメントモルタルの性能例

施工方法		左官			吹付け	充てん
硬化性		普通		速硬	普通	普通
軽量性		普通	軽量			
単位容積質量（kg/l）		1.8～2.2	1.3～1.6	1.8～2.1	1.5～2.2	2.1～2.2
フロー		120～160	110～150	120～160	140～250	～300
硬化時間（h）		3～8	3～10	0.5～2	3～8	4～15
圧縮強度（N/mm2）	材齢 3h	—	—	3～15	—	—
	材齢 1d	5～25	3～25	10～30	5～15	5～10
	材齢 7d	20～40	5～30	20～40	20～40	15～40
	材齢 28d	25～60	10～35	25～40	30～60	25～50
付着強度（N/mm2）	標準	1.8～3.4	1.8～2.6	2.0～2.8	2.0～3.5	2.0～2.3
	温冷繰返し	1.6～2.4	2.0～3.0	1.6～3.0	1.5～2.4	1.6～2.2
弾性係数（kN/mm2）		16～21	12～15	13～21	14～21	17～21
引張強度（N/mm2）		3～6				
収縮率（×10-6）		200～1000				
熱膨張率（×10-6/℃）		8～17	9～13	10～15	9～17	—

出典：「表面保護工法　設計施工指針(案)[工種別マニュアル編]：土木学会」P.202

鉄筋コンクリート補修用防錆材の品質基準

項目		基準値
耐アルカリ性		塗膜に異常が認められないこと
鉄筋に対する付着強さ（N/mm2）		7.8以上
防せい性	処理部	防せい率：50%以上
	未処理部	防せい率：-10%以上※

※：未処理部の防せい率は、防せい材で処理することによって、マクロセルを形成し、基材部の鉄筋腐食を促進するようなものであってはならず、比較用モルタルの発せい率とほぼ同等以下とし、発せい率で＋10%以下（＝防せい率で-10%以上）とした。

出典：「ひびわれ調査、補修・補強指針：日本コンクリート工学協会」P.128

工 事 名	橋梁修繕工事（元屋橋）		
図 面 名	補修標準図		
作成年月日	令和 8 年 7 月		
縮　　尺	図 示	図面番号	10 / 10
会 社 名			
事業者名	福山市 神辺建設産業課		

参　考　図　書

施工単価表

ひび割れ補修工(低圧注入工法)　S1020035　単第0 -0001　表

補修延べ延長25m未満の場合　1　構造物　当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
土木一般世話役	1.500	人			
特殊作業員	2.400	人			
普通作業員	1.800	人			
注入材 エポキシ樹脂注入材1種 ボンドE2601相当品	0.176	kg			
シール材 水中硬化可能型エポキシ樹脂系パテ状接着剤 ボンドE380相当品	1.348	kg			
注入器具 低圧注入器具	42.000	個			
諸雑費	6	%			#09
＊＊＊　単位当たり　＊＊＊	1	構造物			
A=1　【F】注入材(kg) C=2　【F】シール材(kg) E=3　【F】低圧注入器具(個)			B=0.176　注入材の必要数量(kg/構造物) D=0.984　シール材の設計数量(kg/構造物) F=42　低圧注入器具の必要数量(個/構造物)		

施工単価表

断面修復工(左官工法)　　S1020039　　単第0 -0002　表

(鉄筋ケレン・鉄筋防錆処理を含む)　　修復延べ体積0.1m3未満の場合　　1　　構造物　当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
土木一般世話役	2.800	人			
特殊作業員	5.300	人			
普通作業員	2.800	人			
断面修復材 ポリマーセメントモルタル	0.006	m3			
諸雑費	8	%			#09
＊＊＊　単位当たり　＊＊＊	1	構造物			
A=4　【F】断面修復材(m3)			B=0.005　断面修復材の設計数量(m3/構造物)		

施工単価表

殻運搬　　SPK25040155　　単第0 -0003　表

Co(無筋)構造物とりこわし　　DID区間無し　運搬距離10.9km以下(8.0km超)　　1　　m3　　当り

機械構成比:　40.77%　　労務構成比:　44.82%　　材料構成比:　14.41%　　市場単価構成比:　0.00%　　標準単価:　1,790.50000

代表機労材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
ダンプトラック[オンロード・ディーゼル] 10t積級 (タイヤ損耗費及び補修費(良好)を含む)	40.77%		ダンプトラック[オンロード・ディーゼル] 10t積級 (タイヤ損耗費及び補修費(良好)を含む)		MTPC00018T1 MTPT00018T1
運転手(一般)	44.82%		運転手(一般)		RTPC00007 RTPT00007
軽油 パトロール給油,2～4KL積載車給油	14.41%		軽油パトロール給油		TTPC00013 TTPT00013
積算単価			積算単価		EP001
A=1　Co(無筋)構造物とりこわし C=1　DID区間無し E=1　-(全ての費用)			B=1　機械積込 D=44　運搬距離10.9km以下(8.0km超)		

施工単価表

素地調整　　SPK25040312　　単第0 -0004　表

防護柵類　　1　m2　当り

機械構成比: 0.00%　労務構成比: 100.00%　材料構成比: 0.00%　市場単価構成比: 0.00%　標準単価： 1,347.20000

代表機労材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
塗装工	97.09%		塗装工		RTPC00013 RTPT00013
その他(労務)			その他(労務)		ER009
積算単価			積算単価		EP001
A=4　防護柵類			C=1　-(全ての費用)		

施工単価表

下塗　　V0001　　単第0 -0005　表

29　　m2　　当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
付属構造物塗替 塗装(各種) 防護柵類・落石防止柵類	29	m2			単第0-0006　表
常温亜鉛メッキ ローバル相当品	8.8	kg			
＊＊＊　合計　＊＊＊	29	m2			
＊＊＊　単位当たり　＊＊＊	1	m2			

施工単価表

付属構造物塗替　　SPK25040313　　単第0 -0006　表

塗装(各種)　　防護柵類・落石防止柵類　　1　　m2　　当り

機械構成比:　0.00%　労務構成比:　96.96%　材料構成比:　3.04%　市場単価構成比:　0.00%　　標準単価:　1,135.30000

代表機労材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
塗装工	95.06%		塗装工		RTPC00013 RTPT00013
その他(労務)			その他(労務)		ER009
塗替塗装材	3.04%		長油性フタル酸樹脂塗料 (JIS K5516 2種) 淡彩色 上塗用		F0000000008 TTPT00070
積算単価			積算単価		EP001
A=31　塗装(各種) C=4　防護柵類・落石防止柵類 E=1　塗替回数1回			B=8　【F】塗装(kg) D=1　ペイント使用量10kg以下 G=1　-(全ての費用)		

施工単価表

上塗　　V0002　　単第0 -0007　表

29　　m2　　当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
付属構造物塗替 塗装(各種) 防護柵類・落石防止柵類	29	m2			単第0-0006　表
常温亜鉛メッキ ローバルアルファ相当品	8.8	kg			
＊＊＊　合計　＊＊＊	29	m2			
＊＊＊　単位当たり　＊＊＊	1	m2			

施工単価表

支承補修工　　V0003　　単第0 -0008　表

ゴム支承用耐候性表面保護　　ハード＋ソフト　　0.004　m2　当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
橋りょう世話役	1.0	人			
橋りょう塗装工	1.0	人			
普通作業員	1.0	人			
ゴム支承用耐候性表面保護 HBコート（ハード）相当品	1.0	本			
ゴム支承用耐候性表面保護 HBコート（ソフト）相当品	1.0	本			
諸雑費	20	%			#01
＊＊＊　合計　＊＊＊	0.004	m2			
＊＊＊　単位当たり　＊＊＊	1	m2			

施工単価表

橋面防水工　　V0004　　単第0 -0009　表

95　m2　当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
橋面防水工(補修) 塗膜系防水 アスファルト系	95	m2			単第0-0010　表
排水用導水管 φ18㎜ ステンレス製	41.2	m			
成形目地材 厚5㎜×幅30㎜ (参考)セロシールSSテープ	28.5	m			
＊＊＊　合計　＊＊＊	95	m2			
＊＊＊　単位当たり　＊＊＊	1	m2			

施工単価表

橋面防水工(補修) 塗膜系防水　　SS000255　　単第0 -0010　表

アスファルト系　　1　　m2　　当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
塗膜系防水【材工共】 アスファルト系 補修	1.000	m2			
諸雑費	1	式			
＊＊＊　単位当たり　＊＊＊	1	m2			
A=1　　-					

施工単価表

舗装版切断　　SPK25040307　　単第0 -0011　表

アスファルト舗装版　　アスファルト舗装版厚15cm以下　　1　m　当り

機械構成比: 15.05%　労務構成比: 58.43%　材料構成比: 26.52%　市場単価構成比: 0.00%　標準単価： 700.44000

代表機労材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
コンクリートカッタ バキューム式(超低騒音型)・湿式 切削深20cm級ブレード径φ56cm	10.24%		コンクリートカッタ バキューム式(超低騒音型)・湿式 切削深20cm級ブレード径φ56cm		MTPC00164 MTPT00164
その他(機械)			その他(機械)		EK009
特殊作業員	19.96%		特殊作業員		RTPC00001 RTPT00001
土木一般世話役	10.88%		土木一般世話役		RTPC00009 RTPT00009
普通作業員	8.92%		普通作業員		RTPC00002 RTPT00002
その他(労務)			その他(労務)		ER009
コンクリートカッタブレード 自走式切断機用 径45cm(18インチ)	22.39%		コンクリートカッタブレード 径18インチ		TTPC00394 TTPT00394
ガソリン,レギュラー スタンド渡し,スタンド給油	2.81%		ガソリンレギュラースタンド		TTPC00014 TTPT00014
その他(材料)			その他(材料)		EZ009

施工単価表

舗装版切断　　SPK25040307　　単第0 -0011　表

アスファルト舗装版　　アスファルト舗装版厚15cm以下　　1　m　当り

機械構成比: 15.05%　労務構成比: 58.43%　材料構成比: 26.52%　市場単価構成比: 0.00%　標準単価： 700.44000

代表機労材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
積算単価			積算単価		EP001
A=1 アスファルト舗装版 E=1 -(全ての費用)			B=1 アスファルト舗装版厚15cm以下		

施工単価表

舗装版破砕　　SPK25040306　　単第0 -0012　表

アスファルト舗装版　　障害等無し 舗装版厚15cm以下　　1　　m2　　当り

機械構成比: 12.85%　労務構成比: 81.24%　材料構成比: 5.91%　市場単価構成比: 0.00%　標準単価： 217.37000

代表機労材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
<賃>後方超小旋回バックホウ(クローラ型) 山積0.45m3(平積0.35m3) 排出ガス対策型(第1,2,3次基準値)低騒音	12.85%		バックホウ(クローラ型) [後方超小旋回型] 山積0.45m3(平積0.35m3)		KTPC00066 KTPT00066
土木一般世話役	29.54%		土木一般世話役		RTPC00009 RTPT00009
運転手(特殊)	27.52%		運転手(特殊)		RTPC00006 RTPT00006
普通作業員	24.18%		普通作業員		RTPC00002 RTPT00002
軽油 パトロール給油,2～4KL積載車給油	5.91%		軽油パトロール給油		TTPC00013 TTPT00013
積算単価			積算単価		EP001
A=1 アスファルト舗装版 C=1 騒音振動対策不要 F=1 積込作業有り			B=1 障害等無し D=1 舗装版厚15cm以下 G=1 -(全ての費用)		

施工単価表

殻運搬　　SPK25040155　　単第0 -0013　表

舗装版破砕　　DID区間無し　運搬距離11.5km以下(6.5km超)　　1　　m3　　当り

機械構成比:　44.05%　　労務構成比:　39.87%　　材料構成比:　16.08%　　市場単価構成比:　0.00%　　標準単価:　3,615.90000

代表機労材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
ダンプトラック[オンロード・ディーゼル] 10t積級 (タイヤ損耗費及び補修費(良好)を含む)	44.05%		ダンプトラック[オンロード・ディーゼル] 10t積級 (タイヤ損耗費及び補修費(良好)を含む)		MTPC00018T1 MTPT00018T1
運転手(一般)	39.87%		運転手(一般)		RTPC00007 RTPT00007
軽油 パトロール給油,2～4KL積載車給油	16.08%		軽油パトロール給油		TTPC00013 TTPT00013
積算単価			積算単価		EP001
A=3　舗装版破砕 C=1　DID区間無し E=1　-(全ての費用)			B=3　機械積込(騒音対策不要,舗装版厚15cm以下) D=46　運搬距離11.5km以下(6.5km超)		

施工単価表

表層(車道・路肩部)　SPK25040244　単第0 -0014　表

平均幅員3.0m超　1層当り平均仕上厚60mm　1　m2　当り

機械構成比: 1.42%　労務構成比: 10.48%　材料構成比: 88.10%　市場単価構成比: 0.00%　標準単価： 1,667.90000

代表機労材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
<賃>アスファルトフィニッシャ(ホイール型) 舗装幅2.3～6.0m 排出ガス対策型(第1,2次基準値)低騒音	0.95%		アスファルトフィニッシャ [ホイール型] 舗装幅2.3～6.0m		KTPC00060 KTPT00060
<賃>タイヤローラ 質量8～20t 排出ガス対策型(第1,2次基準値)低騒音	0.15%		タイヤローラ 質量8～20t		KTPC00007 KTPT00007
<賃>ロードローラ(マカダム) 質量10～12t 排出ガス対策型(第1,2次基準値)	0.15%		ロードローラ [マカダム]質量10t～12t		KTPC00047 KTPT00047
その他(機械)			その他(機械)		EK009
普通作業員	3.97%		普通作業員		RTPC00002 RTPT00002
運転手(特殊)	2.23%		運転手(特殊)		RTPC00006 RTPT00006
特殊作業員	2.20%		特殊作業員		RTPC00001 RTPT00001
土木一般世話役	0.79%		土木一般世話役		RTPC00009 RTPT00009
その他(労務)			その他(労務)		ER009

施工単価表

表層(車道・路肩部)　SPK25040244　単第0 -0014　表

平均幅員3.0m超　1層当り平均仕上厚60mm　1　m2　当り

機械構成比: 1.42%　労務構成比: 10.48%　材料構成比: 88.10%　市場単価構成比: 0.00%　標準単価： 1,667.90000

代表機労材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
再生加熱アスファルト混合物 再生密粒度(20)	87.50%		密粒度As混合物(20) [標準数量]平均仕上り厚50mm		TTPCD0038 TTPT00284
軽油 パトロール給油,2～4KL積載車給油	0.53%		軽油パトロール給油		TTPC00013 TTPT00013
その他(材料)			その他(材料)		EZ009
積算単価			積算単価		E9999
A=4 平均幅員3.0m超 C=6 再生密粒度アスファルト混合物(20) G=1 - I=1 -(全ての費用)			B=60 1層当り平均仕上り厚(mm) E=5 瀝青材料無し H=1 -		
【アスファルト混合物単価】 1層当り平均仕上り厚(mm)/1000*(アスファルト混合物単価(円)+各種割増合計値) 1層当り平均仕上り厚(mm):60.000(mm)					

施工単価表

表層(車道・路肩部)　SPK25040244　単第0 -0015　表

平均幅員3.0m超　1層当り平均仕上厚60mm　1　m2　当り

機械構成比: 1.38%　労務構成比: 10.17%　材料構成比: 88.45%　市場単価構成比: 0.00%　標準単価： 1,808.70000

代表機労材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
<賃>アスファルトフィニッシャ(ホイール型) 舗装幅2.3～6.0m 排出ガス対策型(第1,2次基準値)低騒音	0.88%		アスファルトフィニッシャ [ホイール型] 舗装幅2.3～6.0m		KTPC00060 KTPT00060
<賃>タイヤローラ 質量8～20t 排出ガス対策型(第1,2次基準値)低騒音	0.14%		タイヤローラ 質量8～20t		KTPC00007 KTPT00007
<賃>ロードローラ(マカダム) 質量10～12t 排出ガス対策型(第1,2次基準値)	0.13%		ロードローラ [マカダム]質量10t～12t		KTPC00047 KTPT00047
その他(機械)			その他(機械)		EK009
普通作業員	3.66%		普通作業員		RTPC00002 RTPT00002
運転手(特殊)	2.06%		運転手(特殊)		RTPC00006 RTPT00006
特殊作業員	2.03%		特殊作業員		RTPC00001 RTPT00001
土木一般世話役	0.73%		土木一般世話役		RTPC00009 RTPT00009
その他(労務)			その他(労務)		ER009

施工単価表

表層(車道・路肩部)　SPK25040244　単第0 -0015　表

平均幅員3.0m超　1層当り平均仕上厚60mm　1　m2　当り

機械構成比: 1.38%　労務構成比: 10.17%　材料構成比: 88.45%　市場単価構成比: 0.00%　標準単価： 1,808.70000

代表機労材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
再生加熱アスファルト混合物 再生密粒度(20)	80.70%		密粒度As混合物(20) [標準数量]平均仕上り厚50mm		TTPCD0038 TTPT00284
アスファルト乳剤(JISK2208) アスファルト乳剤(浸透用) PK-3プライムコート用	7.17%		アスファルト乳剤(JISK2208) アスファルト乳剤(浸透用) PK-3プライムコート用		TTPC00026 TTPT00026
軽油 パトロール給油,2～4KL積載車給油	0.49%		軽油パトロール給油		TTPC00013 TTPT00013
その他(材料)			その他(材料)		EZ009
積算単価			積算単価		E9999
A=4 平均幅員3.0m超 C=6 再生密粒度アスファルト混合物(20) G=1 - I=1 -(全ての費用)			B=60 1層当り平均仕上り厚(mm) E=2 PK-3 H=1 -		
【アスファルト混合物単価】 1層当り平均仕上り厚(mm)/1000*(アスファルト混合物単価(円)+各種割増合計値) 1層当り平均仕上り厚(mm):60.000(mm)					

施工単価表

FCクラック抑制工　　V0007　　単第0 -0016　表

1　　橋　　当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
FCクラック抑制工	26.0	m			単第0-0017　表
運搬費	1.0	式			
＊＊＊　単位当たり　＊＊＊	1	橋			

施工単価表

FCクラック抑制工　　V0005　　単第0 -0017　表

10　m　当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
土木一般世話役	1.0	人			
特殊作業員	3.0	人			
普通作業員	4.0	人			
弾性合材 ファルコンHR相当品	447.48	kg			
下地処理用接着剤 FCコート相当品	2.1	L			
止水材 メジエイドMA20相当品	10.0	m			
雑品	5	%			#01
機械損料 FCクッカー含む	1	式			
諸雑費	20	%			#02
＊＊＊　合計　＊＊＊	10	m			
＊＊＊　単位当たり　＊＊＊	1	m			

施工単価表

止水板　　SPK25040119　　単第0 -0018　表

止水板(各種)　　1　m　当り

機械構成比: 0.00%　労務構成比: 55.88%　材料構成比: 44.12%　市場単価構成比: 0.00%　標準単価： 2,958.60000

代表機労材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
普通作業員	41.22%		普通作業員		RTPC00002 RTPT00002
土木一般世話役	14.66%		土木一般世話役		RTPC00009 RTPT00009
止水材 メジエイドMA20相当品	44.12%		塩ビ製止水板 CF 幅200×厚さ5mm		F0000000018 TTPT00198
積算単価			積算単価		EP001
A=9　止水板(各種)			B=18　【F】止水板(m)		

施工単価表

シール材　　V0006　　単第0 -0019　表

3　　m　　当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
シール材	3	m			単第0-0020　表
シール材 　シリコーン系　プライマー含む	1	L			
＊＊＊　合計　＊＊＊	3	m			
＊＊＊　単位当たり　＊＊＊	1	m			

施工単価表

シール材　　SPK25040120　　単第0 -0020　表

1　m　当り

機械構成比: 0.00%　労務構成比: 100.00%　材料構成比: 0.00%　市場単価構成比: 0.00%　標準単価： 2,423.50000

代表機労材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
普通作業員	64.99%		普通作業員		RTPC00002 RTPT00002
土木一般世話役	24.30%		土木一般世話役		RTPC00009 RTPT00009
その他(労務)			その他(労務)		ER009
積算単価			積算単価		EP001

数　量　総　括　表

工　種　/　種　別　/　規　格				単位	数　量		摘　要
					使　用	積　算	
ひび割れ補修工							
	ひび割れ注入工 1種(下部工)						
		低圧注入工法	補修延べ延長25m未満の場合	構造物	1	1	ひび割れ延長 L=9.65m
		注入材	エポキシ樹脂1種 設計数量=0.147kg	kg	0.176	0.176	ロス含む
		シール材	設計数量=0.984kg	kg	1.348	1.348	ロス含む
		注入器具	@250	本	42	42	
断面修復工							
	断面修復工(上部工)						
		左官工法	鉄筋ケレン・防錆処理を含む 補修延べ体積0.1m3未満の場合	構造物	1	1	
		断面修復材	ポリマーセメントモルタル 設計数量=0.005kg	m3	0.006	0.006	ロス含む
		殻運搬	コンクリート殻（無筋）	m3	0.005	0.005	
		殻処理	コンクリート殻（無筋）	t	0.012	0.01	殻運搬×2.35
塗替塗装工							
	塗替塗装工						
		素地調整	手工具処理・3種Cケレン	m2	29.4	29	
		常温亜鉛めっき	下塗り1回・上塗り1回	m2	29.4	29	各塗布量 300g/m2(ハケの場合)
		常温亜鉛めっき使用量	ローバルおよびローバルアルファ	リットル	8.8	8.8	
支承補修工							
	支承補修工						
		支承補修工	HBコート	m2	0.004	0.004	
		（参考）HBコートハードタイプ	段差部に充填	本	1	1	
		（参考）HBコートソフトタイプ	補修部に塗布	本	1	1	
橋面補修工							
	橋面防水工						
		橋面防水	塗膜系アスファルト加熱型防水層	m2	94.9	95	
		ドレーン材	排水用導水管（φ18）	m	41.2	41.2	ロス含む
		目地工	成型目地材（b=30mm・t=5mm）	m	28.5	28.5	ロス含む
	舗装打換え工						
		舗装版切断工	t=6cm（想定）	m	36.6	37	
		舗装版破砕工	t=15cm以下	m2	161.0	161	
		殻運搬	アスファルト	m3	9.7	10	
		殻処理	アスファルト	t	22.7	23	殻運搬×2.35
		表層	t=6cm（想定） 再生密粒度アスコン(20)	m2	94.9	95	
		表層	t=6cm（想定） 再生密粒度アスコン(20)PK-3	m2	66.1	66	
	伸縮装置設置工						
		伸縮装置延長	クラック抑制工法 （ファルコン+メジエイド）	m	26.0	26	
		目地補修延長	止水材（メジエイド相当品）	m	3.6	4	地覆
		目地補修延長	シール材	m	3.4	3	地覆

1.　ひび割れ補修工

1-2.　下部工　（補修図　参照）

1-2-1.　ひび割れ注入工（下部工）

注　入　材　料 ： エポキシ樹脂1種
適　用　範　囲 ： 0.2 ～1.0㎜未満のひび割れに適用
注　入　深　さ ：　0.05　mとする。
注　　入　　材 ： ひび割れ延長 ×　平均幅　× 注入深さ ×　1150 / 単位重量(kg/m3)　：ボンドE2601相当品

シ　ー　ル　材 ： ひび割れ延長 ×　0.002　×　0.03　(シール材(厚みm×幅m))　×　1700 / 単位重量(kg/m3)　：ボンドE380相当品

注　入　器　具 ：　250　㎜ピッチとする。
ロ　　ス　　率 ： 注入材＝　20　％ 、　シール材＝　37　％

部　位	ひび割れ延長 (m)	平均幅 (m)	注入材 (kg)	シール材 (kg)	低圧注入器具 (本)
A1橋台	4.600	0.00026	0.069	0.469	20
A2橋台	5.050	0.00027	0.078	0.515	22
合　計	**9.650**	―	**0.147**	**0.984**	**42**
		ロス率考慮＝	**0.176**	**1.348**	

2.　断面修復工

2-1.　上部工　（補修図　参照）

2-1-1.　防錆処理有りの場合

工　　法 ： 左官工法
修 復 材 料 ： ポリマーセメントモルタル
修 復 深 さ ：　45　mmとする。
ロ　ス　率 ： 充填材＝　18　%

部　位	寸法 (m2)	修復深さ (m)	修復量 (m3)
地覆	0.122	0.045	0.005
合　計	0.122	—	**0.005**
		ロス率考慮＝	**0.006**

2-1-2.　殻運搬

V=　0.005　=　0.005　m3

2-1-3.　殻処理

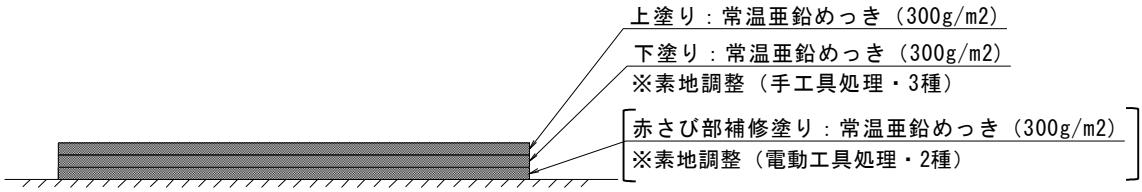
W=　0.005　×　2.35　=　0.012　t

3.　塗替塗装工　　（ 塗装塗替工図　参照 ）

3-1.　塗装塗替工　：常温亜鉛めっき

1 ）塗装仕様

塗替塗装工（常温亜鉛めっき）



2 ）素地調整・塗替塗装面積

支柱（□-125×125）

・周長

l1 =　0.125 × 4 = 0.500 m

a1 =　0.750（支柱長） × 0.500（周長） × 7（本） × 2（上下流） = 5.250 m2

水平材（上段）□-150×100

・周長

l2 =　0.150 + 0.100 + 0.150 + 0.100 = 0.500 m

a2 =　12.428（部材長） × 0.500（周長） × 1（本） × 2（上下流） = 12.428 m2

水平材（中段）□-75×45

・周長

l3 =　0.075 + 0.045 + 0.075 + 0.045 = 0.240 m

a3 =　12.428（部材長） × 0.240（周長） × 1（本） × 2（上下流） = 5.965 m2

水平材（下段）□-75×45

・周長

l4 =　0.075 + 0.045 + 0.075 + 0.045 = 0.240 m

a4 =　12.428（部材長） × 0.240（周長） × 1（本） × 2（上下流） = 5.965 m2

水平材（上段）小口部　□-150×100

a5 =　0.150 × 0.100 × 2（A1・A2） × 2（上下流） = 0.060 m2

水平材（中段）小口部　□-75×45

a6 =　0.075 × 0.045 × 2（A1・A2） × 2（上下流） = 0.014 m2

水平材（下段）小口部　□-75×45

a7 = 0.075 × 0.045 × 2 / A1・A2 × 2 / 上下流 = 0.014 m2

・控除（支柱と上段水平材の接続部）

a8 = 0.075 × 0.125 × 7 / 本 × 2 / 上下流 = -0.131 m2

・控除（支柱と中段水平材の接続部）

a9 = 0.045 × 0.125 × 7 / 本 × 2 / 上下流 = -0.079 m2

・控除（支柱と下段水平材の接続部）

a10 = 0.045 × 0.125 × 7 / 本 × 2 / 上下流 = -0.079 m2

ΣA1 = 29.407 m2

3 ）合計

A = = 29.407 m2

常温亜鉛めっき使用量（ローバルおよびローバルアルファ）

V＝ 29.407 × 0.3 / m2あたり0.3リットル = 8.822 リットル

4.　支承補修工　　（ 支承補修工図　参照 ）

4-1.　支承補修工

１）支承補修工　　HBコート

A ＝　0.220（延長）　×　0.020（厚さ）　＝　0.004　m2

（参考）

HBコート　ハードタイプ（段差部に充填）　　100　cc/本

１㎜の亀裂が1箇所あり、2㎝程度すりこむとして算出）

V　＝　0.001　×　0.02　×　100　＝　0.002　cc ≒　1 本

HBコート　ソフトタイプ　　180cc/本　　１本で約１㎡の塗布が可能

V　＝　0.004　×　1　×　180　＝　0.72　cc ≒　1 本

5.　橋面補修工　　（ 橋面補修工図　参照 ）

5-1.　橋面防水工　：塗膜系アスファルト加熱型防水層

1 ）橋面防水

A ＝　　＝　94.920　m2

2 ）ドレーン材

排水用導水管（φ18）

L ＝（ 10.495 ＋ 10.495 ＋ 9.100 ＋ 9.100 ）× 1.05　　＝　41.150　m

（A1側 / A2側 / 上流側 / 下流側 / ロス率5%）

3 ）目地工

・成型目地材（b=30mm・t=5mm）

L ＝（ 13.590 ＋ 13.590 ）× 1.05　　＝　28.539　m

（上流側 / 下流側 / ロス率5%）

5-2.　舗装打換え工　：再生密粒度アスコン(20)

1 ）舗装版切断工（t=6cm想定）

L ＝ 16.960 ＋ 19.600　　＝　36.560　m

（A1 / A2）

2 ）舗装版破砕工

・橋面（CAD求積より）

A ＝　　＝　94.920　m2

・A1側（CAD求積より）

A ＝　　＝　32.390　m2

・A2側（CAD求積より）

A ＝　　＝　33.700　m2

ΣA ＝　161.010　m2

3 ）殻運搬

V ＝（ 94.920 ＋ 32.390 ＋ 33.700 ）× 0.060　　＝　9.661　m3

（橋面 / A1 / A2）

4 ）殻処理

W ＝ 9.661 × 2.35　　＝　22.703　t

5 ）表層

A ＝ 94.920　　＝　94.920　m2

（橋面）

A ＝ 32.390 ＋ 33.700　　＝　66.090　m2

（A1背面 / A2背面）

5-3.　伸縮装置設置工

1）伸縮装置延長　(クラック抑制工法) ファルコン+メジエイド

L = 13.000 (A1) + 13.000 (A2) = 26.000 m

2）目地補修延長　(メジエイド)

L = (0.850 + 0.045) × 4 = 3.580 m

3）目地補修延長　(シール材)

L = 0.850 × 4 = 3.400 m

V = 3.400 × 0.020 × 0.015 × 1000 = 1.0 ﾘｯﾄﾙ